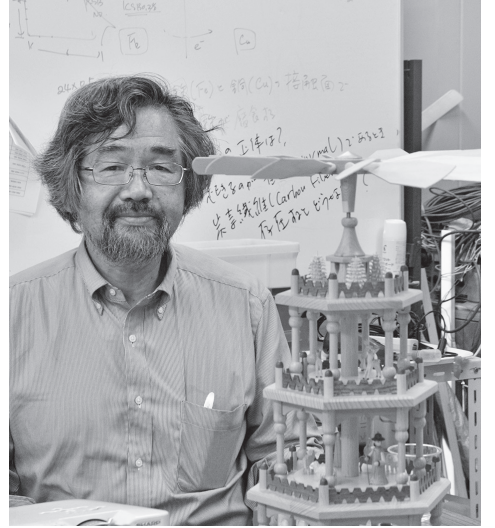




「ピラミッド風車」の意味するもの

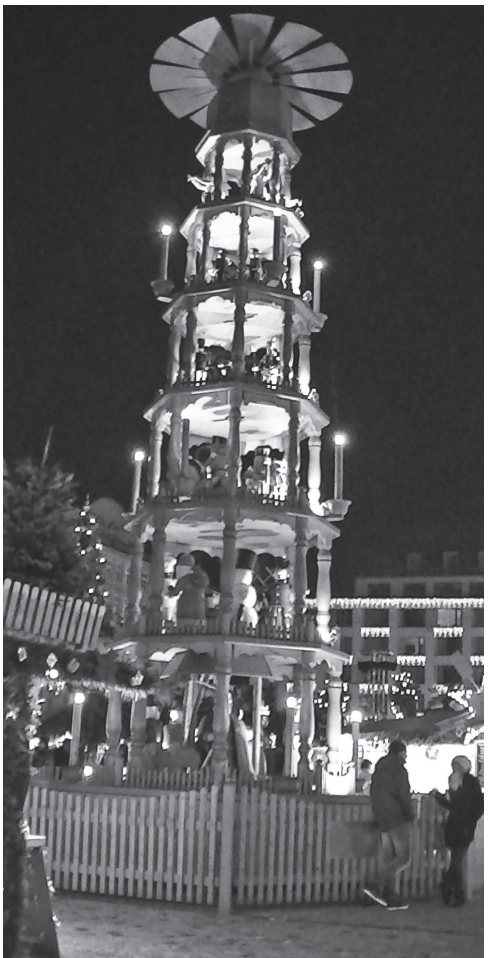
～ドイツのクリスマス・マーケットを巡って～

千葉大学大学院工学研究科
都市環境システムコース准教授
佐藤 建吉



千葉大学の佐藤研究室にて、室内用のピラミッド風車を前に。

11月29日からドイツに来て。この時期、ドイツ各地の恒例行事であるクリスマス・マーケット（以下、クリマと略称）に設置されている「ピラミッド風車」（クリスマス・ピラミッドともいう）を調査するためです。ベルリンをスタートし、レンタカーで1300キロ走りまわりました。ドレスデン、ザイフェン、ライプチヒ、ハノーバー、ツェレ、マグデブルグ、ポツダム、そしてロストックと、6カ所のクリマを訪ねました。



高さ〇mに及ぶ〇〇〇〇〇のピラミッド風車。クリスマス・マーケットを彩る風物詩だ。

最初に見たベルリンのピラミッド風車は、高さが10層ほどで、2階のカフェでは名物のホットワインを楽しむことができました。この風車の羽根の回転は、例外的に屋外の自然風で回転していました。ドレスデンのピラミッド風車は、後述するザイフェンの工房集団が地の利を得、粋を集めて製作したことを示す銘板を掲げていますが、残念ながら、風車の回転は電

動です。ライプチヒのそれは、古い時代の伝統と歴史の趣を示すもので、荷車に設置されたピラミッド風車で、情緒あふれるものです。一方、マグデブルグのそれは大型で、さらにモダンな電飾が施されていました。ポツダムは、湖で囲まれた静かな観光都市で、クリマは木造の売店小屋が街路に店し賑わいがあります。その街路の交差点で電飾された高さ6層を超える大きなピラミッド風車が回転し、1階部分は保存食料や進物用品の売店となつています。北部ドイツの港町・

ロストックのクリマは、観覧風車や回転木馬、アヒルの風船釣りなど、子供たちにとつての最大恒例行事のようです。10層を超えるピラミッド風車が2基も設置され、電飾されている羽根が回転するので、クリマの華に相応しい存在です。

このようにクリマのピラミッド風車は、屋外に設置される高さ6層を超える大きなものですが、本来は、蠟燭の灯火とともに飾られる小さな室内用ピラミッド風車です。ピラミッド風車の羽根は垂直軸を回転軸として水平に回りますが、羽根を回転させる

のは、蠟燭がつくる上昇気流です。この風車は、ドイツの南東部、チェコに隣接するエルツ山脈のザイフェン地方では、鉱山で働く男たちを家庭の窓辺の蠟燭の灯りで迎える慣習から生まれたとい

います。またこの村は、くるみ割り人形の発祥の地でもあり、現在ではこうした木工おもちゃ製造に関わるたくさんの方があり、主力産業となつて

います。「ザイフェンのおもちゃ博物館」は地域の歴史と伝統を、誇らし気に展示しています。

クリマの多くのピラミッド風車の回転は、今日では残念ながら、蠟燭の気流ではなく電動モーターです。風車の2階、3階、4階は回転台になっており、クリスマスのいわれであるマリア・羊飼いの三賢人などの人形が、羽根の回転とともに巡るよう仕掛けられています。クリマには必ずピラミッド風車があり、その大きさや形状・構造、人形のデザイン、さ

らに電飾方法などは地域や文化により多彩で、その目玉として大型花・多様化しています。ピラミッド風車は、クリマ以外の街中にも設置されており、観光客を迎え、あるいは地域の人々の自信と誇りつくり出しています。

このように、ピラミッド風車は人々の暮らしの中、とくに年末年始のクリスマス行事の中で、歴史と伝統に彩られ定着しているというのが実感です。ドイツ国内をドライブすると、発電風車が至る所で回っていることを確かめることができます。ドイツは土地利用や地形が風力発電に適しているのも事実ですが、市民・政府がRenewable Revolution（再生可能革命）を先導している現実を感じ取れます。ドイツで風力発電が進展している背景として、ピラミッド風車が新型風車を違和感なく受け入れる心境をつくり出していると言えるのではないのでしょうか。